

学校法人御船学園 令和3年度事業報告書

1. 法人の概要

I 法人の基本情報

法人の名称	学校法人御船学園
所在地	熊本県上益城郡御船町大字滝川字東原 1658 番地
電話番号	096(282)0506
FAX番号	096(282)7800
メールアドレス	info@heisei-music.ac.jp
ホームページアドレス	https://www.heisei-music.ac.jp/
設置する学校名	平成音楽大学

II 建学の精神

【建学の精神】 九州から音楽文化を発信する。

【大学の目的】 本学は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、広く知識を授けるとともに、音楽芸術の真理の探究と技術の練磨を教授研究し、創造性豊かな心を持つ人間形成を図る。もって人類の文化と福祉の進展に寄与する有為な人材の育成を目的とする。 (学則第2条)

4つの基本理念

- ①音楽芸術の真理の探求
- ②創造性豊かな心を持つ人間形成
- ③地域社会の音楽文化の発展に寄与する人材育成
- ④福祉の進展に寄与する有為な人材の育成

【教育及び研究の目的】

音楽学部音楽学科

音楽芸術の学修を通じて情操を高め、「豊かな感受性」と「和の心」を涵養し、「想像力」と「健全な身体」を養成すると共に、本学が音楽文化の発信地となることを目指す。

音楽学部こども学科

乳幼児期に音楽が与える感性、美的情操や心理的情緒等の効用につき専門的に教育・研究し、保育園や幼稚園において適宜、適切に音楽を提示できる保育士、幼稚園教諭を育成することを目的とする。

昭和 47(1972)年 3 月	学校法人御船学園設立認可
4 月	初代理事長に出田憲二就任 熊本音楽短期大学開学 音楽科（入学定員：声楽専攻 30、器楽専攻 30 総定員 120） 初代学長に出田憲二就任
昭和 48(1973)年 4 月	教職課程開設 熊本音楽短期大学専攻科開設
昭和 50(1975)年 8 月	運動場用地購入、平屋建て寄宿舎落成
昭和 51(1976)年 4 月	音楽科定員増員 （入学定員：声楽専攻 30、器楽専攻 70 総定員 200）
7 月	2 号館校舎落成
昭和 53(1978)年 2 月	女子寮 5 階建落成
昭和 56(1981)年 2 月	体育館兼演奏ホール落成
昭和 59(1984)年 9 月	3 号館校舎落成
昭和 60(1985)年 1 月	4 号館校舎落成
昭和 62(1987)年 10 月	阿蘇研修所建物落成
平成 9(1997)年 9 月	熊本音楽短期大学 25 周年記念 ニューヨーク・カーネギーホール公演
平成 11(1999)年 3 月	第 1 回九州音楽コンクールを開催
平成 12(2000)年 12 月	音楽療法士（2 種）：全国音楽療法士養成協議会認定 平成音楽大学設置認可 初代学長に出田敬三就任 音楽学部音楽学科教職課程認可（中学・高校一種免許（音楽））
平成 13(2001)年 4 月	平成音楽大学開学 音楽学部音楽学科（入学定員 100 人）
平成 14(2002)年 4 月	全国音楽療法士養成協議会 音楽療法士（1 種）認定校 指定 ミュージック・プロフェッショナルコース設置
平成 17(2005)年 3 月	音楽学部幼児音楽教育学科指定保育士養成施設指定 音楽学部幼児音楽教育学科教員免許課程認可 （幼稚園教諭一種免許状） 音楽専攻科教員免許課程認可 （中学校・高等学校教諭専修免許状（音楽））
4 月	学校法人御船学園理事長に出田敬三就任 音楽学部幼児音楽教育学科開設（入学定員 30 人） 音楽学科入学定員変更（100 人→70 人） 音楽専攻科（入学定員 10 人）開設

平成 18(2006)年 7 月	音楽棟 (CREA-M 棟) 落成
平成 19(2007)年 10 月	コミュニティーセンター落成
平成 21(2009)年 11 月	全国音楽療法士養成協議会 音楽療法士 (2 種) 認定校 指定
平成 22(2010)年 6 月	韓国新羅大学校芸術大学との姉妹校提携
10 月	熊本市キャンパス・サテライトステージ設置 附属音楽教室開講
平成 24(2012)年 4 月	幼児音楽教育学科を「こども学科」に名称変更
平成 28(2016)年 3 月	女子寮を閉鎖
4 月	熊本地震にて大規模な被災
6 月	新駐車場完成
平成 29(2017)年 4 月	入学定員を変更 音楽学科 70 人 → 60 人 こども学科 30 人 → 40 人
11 月	御船町と連携協力に関する包括協定書締結
平成 30(2018)年 3 月	新学食・カフェ棟 MUSIC PARK 落成
令和元(2019)年 7 月	中国ハルビン学院と協力交流協定締結
8 月	新本館、トータルミュージックスタジオ完成 旧本館復旧工事完了
令和 2(2020)年 9 月	熊本市キャンパス・サテライトステージを閉鎖
令和 3(2021)年 4 月	学校法人御船学園理事長に出田雄人就任

IV 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	学部	学科	コース
平成音楽大学	音楽学部	音楽学科	声楽、ピアノ、管弦打楽 作曲、ミュージックパフォーマンス 電子キーボード、サウンドデザイン 音楽教育、音楽療法
		こども学科	

平成音楽大学 音楽専攻科	音楽専攻	声楽、ピアノ、管弦打楽 作曲、ミュージックパフォーマンス 電子キーボード、サウンドデザイン 音楽教育、音楽療法
平成音楽大学 ミュージック・プロフェッショナルコース (M.P.C.)		声楽、ピアノ、管弦打楽 作曲、電子キーボード コンピューターミュージック

V

学校・学部・学科等の入学定員、学生数の概要

(令和3年5月1日)

学校名	学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
平成音楽大学	音楽学部	音楽学科	60	39	240	117
		こども学科	40	25	160	98
	計		100	64	400	215
平成音楽大学 音楽専攻科			10	1		
平成音楽大学ミュージック・プロフェッショナルコース			-	3		

VI

収容定員充足率

(各年度5月1日)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
平成音楽大学	0.66	0.59	0.57	0.51	0.54

VII

役員の概要

理事 現員8名(定員8名)うち外部理事4名

監事 現員2名(定員2名)うち外部監事2名

(令和3年5月1日)

区分	氏名	就任年月	常勤・非常勤の別	主な現職等
理事長	出田 雄人	理事就任・平成29年12月／理事長就任・令和3年4月	常勤	(学)御船学園役員
理事	出田 敬三	平成8年12月	常勤	平成音楽大学学長
理事	大島 紀雄	平成21年4月	非常勤	(株)久保園パール営業本部長
理事	片桐 英夫	平成29年12月	非常勤	(株)寺原自動車学校代表取締役社長
理事	米澤 房朝	平成30年12月	非常勤	(株)ヨネザワ代表取締役社長
理事	出田 節子	令和3年1月	非常勤	(医)出田会理事長
理事	岩山 恵美子	令和3年1月	常勤	平成音楽大学副学長
理事	浦上 仁史	令和3年1月	常勤	(学)御船学園法人事務局長
監事	沖田 昌史	平成5年12月	非常勤	(福)南苑会理事
監事	中田 泉	平成29年12月	非常勤	元平成音楽大学事務局長

VIII 評議員の概要

評議員 現員 17 名 (定員 17 名)

(令和 3 年 5 月 1 日)

氏名	就任年月	主な現職等
宇都 香織	平成 28 年 4 月	平成音楽大学事務局長
村田 靖弘	令和元年 8 月	平成音楽大学トータルサポートセンター室長
永脇 信敬	令和 2 年 12 月	平成音楽大学総務部長
富永 若子	平成 8 年 12 月	ピアノ指導者、前同窓会会長
古川 寛子	平成 31 年 3 月	(一社) スタディライフ熊本代表理事、同窓会会長
野口 壮一	令和 3 年 1 月	御船町総務課長
福島 則義	平成 23 年 4 月	保護者後援会名誉会長
甲斐 田鶴子	平成 17 年 12 月	御船町文化協会事務局長
柴田 和男	平成 29 年 12 月	(株) オオバ取締役
※ 出田 敬三	平成 22 年 8 月	平成音楽大学学長
※ 大島 紀雄	平成 12 年 12 月	(株) 久保園パール営業本部長
※ 出田 雄人	平成 29 年 12 月	(学) 御船学園理事長
野中 建光	令和元年 8 月	坂本孝臣税理士事務所副所長
山本 浩章	令和元年 8 月	(株) 山本ダンボール代表取締役社長
※ 岩山 恵美子	平成 26 年 12 月	平成音楽大学副学長
亀井 裕子	平成 28 年 4 月	平成音楽大学こども学科長
河津 悦雄	令和 2 年 12 月	河津酒造(株)代表取締役会長

※は理事兼任者

IX 教職員の概要

(令和 3 年 5 月 1 日)

本務教員数 (専任教員)	音楽学部	計	教授	准教授	講師
	音楽学科	12 人	8 人	3 人	1 人
	こども学科	7 人	4 人	1 人	2 人
	計	19 人	12 人	4 人	3 人
兼務教員数 (非常勤教員)		68 人			

事務職員数	15 人
-------	------

※平均年齢 教員 56.9 才 職員 41.5 才

2. 事業の概要

I 平成音楽大学の目的

【大学の目的】 本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、広く知識を授けるとともに、音楽芸術の真理の探究と技術の練磨を教授研究し、創造性豊かな心を持つ人間形成を図る。もって人類の文化と福祉の進展に寄与する有為な人材の育成を目的とする。 (学則第2条)

4つの基本理念

- ①音楽芸術の真理の探求
- ②創造性豊かな心を持つ人間形成
- ③地域社会の音楽文化の発展に寄与する人材育成
- ④福祉の進展に寄与する有為な人材の育成

【教育及び研究の目的】

音楽学部音楽学科

音楽芸術の学修を通じて情操を高め、「豊かな感受性」と「和の心」を涵養し、「想像力」と「健全な身体」を養成すると共に、本学が音楽文化の発信地となることを目指す。

音楽学部こども学科

乳幼児期に音楽が与える感性、美的情操や心理的情緒等の効用につき専門的に教育・研究し、保育園や幼稚園において適宜、適切に音楽を提示できる保育士、幼稚園教諭を育成することを目的とする。

II 学士課程教育における3つの方針

学士課程教育において、育成する人材像や教育上の目的に基づき、教育上の3つの方針（ポリシー）を定めている。これは「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成と実施の方針）」、「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）」からなるもので、本学の教育目的、教育目標の実現に向けて、どのような学生を受け入れるか、また卒業までに身につけるべき能力をどのようなプログラムを通じて学んでいくかを示している。

[ディプロマ・ポリシー]

<音楽学部>

下記の資質・能力を修得し、それらを総合的に活用できる人に学位（学士）を与える。

(学びに向かう力、人間性) (生涯学習)

- 1 音楽、文化、社会に対して、さまざまな角度から関心をもち、生涯にわたって、自主的、自律的に学修することができる。

(知識)

2 音楽、文化、社会についての幅広い知識を身につけている。

(思考・判断)

3 音楽を通してものごとを多様な観点からとらえ、課題についてさまざまな角度から考察し、適切な判断をすることができる。

(技能)

4 音楽の実践的技能を身につけ個性豊かな表現や独創的な創作ができる。

(表現)

5 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や創作物、演奏という形で表現できる。

(社会参加の意識)

6 大学で学んだことをもとに、地域社会の音楽文化の発展や福祉の進展に寄与する態度をもつ。

<音楽学科>

下記の資質・能力を修得し、それらを総合的に活用できる人に学位（学士）を与える。

(学びに向かう力、人間性) (生涯学習)

1 音楽、文化、社会に対して、さまざまな角度から関心を持ち、よりよい音楽表現を求めて、自主的、自律的に学び続けることができる。

(知識)

2 音楽、文化、社会を関連づけて理解し、専門分野に関する知識を身につけている。

(思考・判断)

3 音楽を通してものごとを多様な観点からとらえ、課題解決に向かって、他者の意見を取り入れながら自らの考えを深め、適切な判断をすることができる。

(技能)

4 専門分野における確かな基礎力を身につけ、実践の場で活かすことのできる幅広い技能を備え、創造性豊かな表現や創作ができる。

(表現)

5 音楽に関する研究・調査の結果を踏まえ、自らの思いや意図・構想を専門分野の技能を用いて、内容が相手に伝わるように表現できる。

(社会参加の意識)

6 大学で学んだことをもとに、地域社会の音楽文化や福祉に関心を持ち、積極的に社会貢献をしようとする態度をもつ。

<こども学科>

下記の資質・能力を修得し、それらを総合的に活用できる人に学位（学士）を与える。

(学びに向かう力、人間性) (生涯学習)

1 音楽、文化、社会などさまざまな角度から保育・幼児教育について関心を持ち、自主的、自律的に学び続けることができる。

(知識)

2 保育・幼児教育に関する専門的な知識とともに音楽、文化、社会など、こどもの豊かな成長・発達に必要な幅広い知識を身につけている。

(思考・判断)

3 音楽を通してものごとを多様な観点からとらえ、保育・幼児教育における課題について深く思考し、適切な判断をすることができる。

(技能)

4 こどもの成長・発達を正しく理解し、個に応じた創造性豊かで適切な援助ができる技能を備えている。

(表現)

5 保育・幼児教育や音楽に関する研究・調査の結果を踏まえ、コミュニケーション力やパフォーマンス力を備えた豊かな表現ができる。

(社会参加の意識)

6 大学で学んだことをもとに、こどもを取り巻く社会や福祉に関心を持ち、積極的に社会貢献をしようとする態度をもつ。

[カリキュラム・ポリシー]

<p><音楽学部></p> <p>卒業の認定に関する方針に掲げる資質・能力を育成するために、下記の方針に従って、教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「基礎科目」「展開科目」「発展・応用科目」の3種類の科目群を配置する。 2 専門実技科目や教養科目の他に「教職に関する科目」「音楽療法に関する科目」「保育士養成に関する科目」を配置する。 3 演奏会、発表会および社会貢献活動などを自主的、主体的に計画・運営する機会を多く設ける。 	
<p><音楽学科></p> <p>卒業の認定に関する方針に掲げる資質・能力を育成するために、下記の方針に従って、教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「基礎科目群」「展開科目群」「発展・応用科目群」において個性豊かな表現や個に応じたきめ細やかな教育、音楽を用いた効果的な対人援助ができるような内容を編成する。 2 音楽性を高め、豊かな人間性を培う実技科目や教養科目とともに、指導者、対人援助者としての確かな専門性を身に付けるために、「教職に関する科目」「音楽療法に関する科目」を配置する。 3 音楽性や専門性を伸ばし、社会貢献の意識を高めるために、演奏会や発表会及びメディアや教育・療法の現場などでの多様な活動の場を設定する。 	<p><こども学科></p> <p>卒業の認定に関する方針に掲げる資質・能力を育成するために、下記の方針に従って、教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「基礎科目群」「展開科目群」「発展・応用科目群」において個に応じたきめ細やかな保育援助ができるような内容を編成する。 2 音楽性を高め、豊かな人間性を培う実技科目や教養科目とともに、保育者としての確かな専門性を身に付けるために、「教職に関する科目」「保育士養成に関する科目」を配置する。 3 音楽性を伸ばし、社会貢献の意識を高めるために、演奏会や発表会及び保育現場などでの多様な活動の場を設定する。

[アドミッション・ポリシー]

<p><音楽学部></p> <p>以下のような人を入学者として受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽を愛好し、社会における音楽の必要性や重要性を理解している人 2 自らの意志で行動し、自主的・自律的に学修することに意欲のある人 3 高等学校までの学習課程で、身につけなければならない基本的な知識・技能を身につけている人 4 大学での学修を通して、専門的な知識・技能、高度な思考力・表現力を修得することに意欲のある人 	
<p><音楽学科></p> <p>以下のような人を入学者として受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽文化を探究し、音楽のよさ、美しさを伝えることに関心や意欲のある人 	<p><こども学科></p> <p>以下のような人を入学者として受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 こどもの音楽文化を探究し、音楽の楽しさを伝えることに関心や意欲のある人

<p>2 音楽美を探究したり、音楽を用いて人と関わったりすることに、意欲をもって自ら学ぼうとする人</p> <p>3 高等学校までに習得する基本的な知識・技能や音楽に関する基礎的な知識・技能を身につけている人</p> <p>4 大学での学修を通して、次の力を習得することに意欲のある人</p> <p>①音楽表現や音楽教育・音楽療法に関する専門的な知識・技能</p> <p>②深く思考し的確に判断する力</p> <p>③思いや意図を音や音楽、言葉を使つて的確に表現する力</p>	<p>2 こどもが好きで、こどもと関わることに意欲をもって自ら学ぼうとする人</p> <p>3 高等学校までに習得する基本的な知識・技能を身につけている人</p> <p>4 大学での学修を通して、次の力を習得することに意欲のある人</p> <p>①保育に関する専門的な知識・技能</p> <p>②深く思考し、的確に判断する力</p> <p>③音楽や身体表現、言葉を使つて豊かに表現する力</p>
--	---

3つの方針（ポリシー）に基づき機関レベル、教育課程レベル、授業科目レベルの3段階で学習成果等を査定・評価し検証するため、令和2年度から学習成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）を定めた。

[アセスメント・ポリシー]

<p>平成音楽大学においては、3つのポリシーに基づき教育の質の保証と不断の改善に取り組むために、次表のように、機関レベル・教育課程レベル・授業科目レベルの3段階で学生の学修成果等を査定・評価し、検証する方法を定める。</p>	<p>段階</p>	<p>入学段階 アドミッション・ポリシーを満たすかどうか</p>	<p>在学中（単位認定） カリキュラム・ポリシーに則つて学修が進められているかどうか</p>	<p>卒業時（卒業後） ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうか</p>
<p>1 機関レベル 学生の卒業・修了率、休・退学率、卒業・修了後の進路決定状況、各種アンケート調査結果から、学修成果の達成状況を検証する。</p>	<p>機関レベル</p>	<p>○各種選抜試験 ○調査書等の記載内容 ○面談、志願理由等</p>	<p>○退学率 ○休学率 ○学生生活満足度調査 ○コンクール等参加・成績状況 ○課外活動状況</p>	<p>○学位授与数 ○卒業・修了率 ○就職状況 ○学生生活満足度調査 ○卒業年次生意識調査</p>

<p>2 教育課程レベル</p> <p>所定の教育課程における卒業要件達成状況（単位取得状況、GPA・成績分布状況、卒業研究等）、資格取得状況等から、学修成果の達成状況を検証する。</p>	教育課程レベル		<ul style="list-style-type: none"> ○GPA ○単位取得状況 ○成績分布 ○出席状況 ○学修ポートフォリオ ○授業評価アンケート ○学生生活満足度調査 ○コンクール等参加・成績状況 	<ul style="list-style-type: none"> ○学位授与数 ○GPA ○単位取得状況 ○卒業演奏・卒業研究・卒業論文 ○資格・免許等取得状況 ○学修ポートフォリオ ○学生生活満足度調査
<p>3 科目レベル</p> <p>シラバスに示された到達目標に対する評価及び授業評価アンケート結果等から、授業科目毎の学修成果の達成状況を検証する。</p>	授業科目レベル		<ul style="list-style-type: none"> ○成績評価 ○単位取得状況 ○科目合格状況 ○成績分布 ○出席状況 ○授業評価アンケート 	

III ガバナンス強化、組織体制の見直し

〔中期計画に沿った実行体制づくり及び実行〕

平成音楽大学の使命・目的を達成するため、令和2(2020)年度から6(2024)年度までの5ヶ年による中期計画を策定している。この中期計画は毎年度において見直しを行っており、評議員会において意見を聴いた後、理事会で決議している。この中期計画に基づき各年度ごとの事業計画書、予算書を作成し、PDCAサイクルを機能させながら、使命・目的の実現に向けた継続的な努力を行っている。

令和2年度までは学長が理事長を務めていたが、令和3年度に新理事長と交代したことから、理事長のガバナンスと、理事会から教学事項の権限を委任された学長のガバナンスがそれぞれに確立されている。

理事長は常勤であり、事務職員が勤務する事務局内で執務している。法人事務局、大学事務局が同じ部屋において、極めてコミュニケーションがとりやすい環境下で業務を行っているが、理事長は眼前で確認しながら統括ができる状態にある。3年度に事務組織改編を行い事務体制の強化に努めている。

地震以降数年にわたり離職率が高い状態であった。様々な要因が考えられるが、現在はこの点に重きを置いて離職者の出ない働き方を推進した結果、令和3年度の離職者はゼロとなった。

〔理事の役割の明確化〕

令和2年度には小刻みな役員変更が行われたが、令和3年度は新理事長の元で組織体制強化を図った。昨年度まで理事定員8名のうち学内理事が時期によって1~3名という状態であったが、現在は半数の4名となっており、安定した運営を行っている。また理事を、総務・財務、学生獲得・広報戦略、学事のそれぞれに担当を割り当て、各担当の役割を明確にした。

〔監事機能の充実〕

監事は毎会計年度始めに監査計画書を作成し、これに沿って法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査を行っている。監査にあたっては会計監査人と定期的に情報交換を行うとともに、関連部署の担当者より状況を聴取するなど、改正私学法の施行初年度であった昨年度に比べ充実したもののとなっている。

〔評議員会機能の充実〕

予算・事業計画をはじめとする法人の業務に関する重要事項について、理事会における決議の前に、理事長があらかじめ評議員会の意見を聴いている。また、決算及び事業の実績について、毎会計年度終了後2月以内に理事会における決議を経た後、評議員会へ報告し意見を求めている。評議員会は、原則として年4回開催するほか、緊急の事案が生じた場合に臨時に開催している。令和3(2021)年度の評議員の評議員会への出席状況(委任状による出席者を除く)は89.7%と概ね良好であった。

〔内部監査室、IR室の開設および財務基盤の確保〕

事業計画のひとつとして掲げた内部監査室については令和3年度には開設できなかったが、IR室については新たに開設し、複数の職員で業務にあたっている。

IR室は自己点検・評価委員会、FD委員会などと連携し、主に「学生による授業評価アンケート」「学生満足度調査」「卒業年次生への意識調査」の集計結果の分析と改善提案、アドミッション・ポリシーを踏まえた入学者選抜結果の検証、GPA分布の分析等に取り組んでいる。

財務基盤の確保について、支出面では人件費・経費見直しの効果があり、人件費比率は令和2年度83.6%から令和3年度70.6%、管理経費比率は令和2年度16.1%から令和3年度11.5%と大幅に低下した。収入面では在学生数増による学納金収入増額に加えて、不要なピアノの売却によって249万円、地元金融機関の出資証券売却により1,510万円の収入を得るなどして運転資金に充当した。その結果、令和2年度当初1.6億円から令和3年度当初7,000万円と大幅に減少していた支払資金は、令和3年度末には4,000万円増加し1.1億円となった。経常収支差額黒字化については引き続きの課題となるが、減価償却補正後経常収支については5年ぶりのプラスとなった。

IV 学生募集、広報戦略

〔入学定員・収容定員充足率〕

令和3年度の在籍学生数は前年度比10名増の215名となり、収容定員充足率は2.5%増の53.8%となったが、高等教育の修学支援新制度含む特別補助交付の機関要件を満たすためには収容定員充足率80%を達成

する必要がある。そこで音楽学部の入学定員を100人から80人に変更し、段階的に収容定員を引き下げることで令和6年度に収容定員充足率80%を達成することを目標とした。

〔学生募集のための体制構築と広報の強化〕

入学までの行動フローとして、一般的には資料請求→来校→受験→入学というパターンが多く、それぞれのフェイズを経るごとに人数が少なくなっていく。本学では入口であるはずの「資料請求」の数が異常に少なく、そのため「来校」数も少ないという状況にある。そこで資料請求数を増やすために進学者者のネット媒体に情報を掲載し、令和2年度に80件だった資料請求数を334件まで増加させた。また、オープンキャンパスの回数自体を増やしたことにより、参加者数は令和2年度の188から令和3年度は258まで増加した。その他、夏期講習会・適性診断・平日キャンパス見学・オンライン受験相談などの新規イベントも追加し、接触者数の底上げを図った。

WEB周りの強化に関して、令和3年度は前述したイベントの告知ページをはじめ、特定のコースの紹介ページ、編入学を支援する特設ページなど新規コンテンツをHPに追加した。また長期間更新が途絶えていたInstagramの更新を再開し、年度当初に約400だったフォロワーは600近くまで増加した。

高校訪問は令和2年度から継続して複数の教職員が担当している。「指定校しか選択肢に入っていない生徒がいる」という高校現場の声を受け、訪問の際の新たな取り組みとして指定校の数を増やすことに注力し、令和2年度の380校から令和3年度には670校まで増加させた。

留学生募集についても引き続き力を入れており、令和2年度に4名だった受験生は令和3年度には5名（編入学含む）となった。

V 教育活動

〔コロナ禍における授業〕

令和2年度は前期授業開始日を遅らせ遠隔授業を取り入れるなど、新型コロナウイルスの感染拡大による影響が大きかったが、令和3年度はほとんどの授業を対面で実施することができた。そのような中で、特別な理由で対面授業が難しい一部の学生に対しては遠隔授業を取り入れ、対面とオンラインのハイブリッド授業の構築も進めることができた。

〔演奏活動〕

令和2年度は、コロナ禍のためほとんどの演奏会が実施できなかったが、令和3年度は7月に「ブラスオーケストラ定期演奏会」、12月に「華麗なる音楽の祭典」、2月に「こども学科ミュージックフェスティバル」を実施した。さらに各コースの学修成果発表の場として「ピアノフェスティバル」「音楽制作コンサート 音・創造」「ヴォーカルサロンコンサート」なども開催した。いずれも従来とは異なる形態での実施となったが、コロナ禍においても学生に演奏機会を提供することができた。

〔FD活動〕

- ・授業改善のためのアンケート調査

教育目的の達成状況を点検評価するための方法を工夫・開発するため、平成 18 年度からFD委員会による全開設科目における学生への授業評価アンケートを実施している。令和 3 年度も教育目的の達成状況を学年ごと、授業ごとに点検・評価するため、前期と後期それぞれに授業評価アンケートを行った。

学生自身の取り組み方についての「出席状況」「授業態度」「自主的な予習・復習」「シラバス閲覧の有無」、教授方法についての「授業の進め方」「教員の熱意」「説明や助言の適切さ」「質問への対応」「話し方の適切さ」「創意工夫」「授業開始・終了時刻の厳守」を質問し、最後に「授業への理解度・満足度」を問うもので、要望や感想の自由記述欄も設けている。

結果は各授業担当者が分析・考察し「自己評価」「改善課題」「改善計画」からなる授業改善計画を作成し、授業改善に役立っている。また学生及び教職員が自由に閲覧できるようにホームページに掲載している。

・授業公開

例年学期ごとに授業公開の期間を設けて全ての教員が授業公開を行うことにしているが、コロナ禍により令和 3 年度は音楽学科とこども学科それぞれが 1 授業を選定し、各学科所属教員全員が当該授業を参観した。参加者は配付された授業プログラムにより参観し、終了後の授業検討会では指導の意図や工夫点と学生の反応・様子をもとに、改善点について意見交換を行った。

VI 学修支援体制

〔奨学金制度〕

入学試験の成績優秀者に対して行う特待生制度のほか、在学生の成績優秀者に対する特別奨学生制度などにより令和 3 年度は 1,138 万円の奨学支援を行った。

また、令和 5 年度入学者選抜のための施策として、経済支援奨学金制度を新設することを決定した。

〔相談室、学校医・養護教諭〕

健全で快適な学生生活をサポートするために相談室を設置し専門のカウンセラーと専任教員がその任にあたっている。また学校医や養護教諭にも常時相談できる体制を整えている。年度初めにはUP I（精神健康調査）を行ってそれぞれの学生に応じた対応をしている。

相談件数は昨年度の 1/3 近くに減少した。相談内容については昨年度と変わりなく、修学、心身、就職、対人関係等が主要なものとなっている。新型コロナウイルス感染拡大が落ち着きを見せた影響もあったのか、電話やメール・ラインによる相談は大幅に減り、大半が対面による相談に戻っている。

	相談件数	相談する手段（割合）	相談内容（割合）
前期	24 件	対面 62.5% 電話 20.8% メール、ライン 16.7%	心身健康 52.6% 対人関係 10.5% 進路・就職 10.5% 家庭生活 10.5% 修学 5.3% その他 10.5%
後期	18 件	対面 77.8% 電話 11.1% メール、ライン 11.1%	心身健康 40.0% 友人関係 30.0% 対人関係 10.0% 進路・就職 10.0% 修学 10.0%

[キャリア支援]

学生のキャリアサポートのために説明会や相談会を当初の計画通りに実行した。

【令和3年度実施分】

- a. 全学年に進路希望調査を実施（4月）
- b. 就職委員による学生への個人面談の実施（7月、11月）

キャリア講座の実施

- ・株式会社マイナビによる就職支援講座（6月）
（就職活動に向けての準備講座）
- ・株式会社リクルートキャリアによる就職支援講座（10月）
（就職活動に向けての自己分析と自己PRの作成）

c. 企業団体説明会の実施

- ・自衛隊説明会（音楽隊含む）（5月）
- ・ヤマハ企業・グレード説明会（6月）
- ・カワイ企業・グレード説明会（7月）
- ・熊本県保育協会保育士就職説明会（10月）

d. 就職委員による個別面接指導

進路・就職状況（令和3年度卒業生）

学科	卒業	進学	就職決定	就職希望なし
音楽学科	18	5	11	2
こども学科	22	2	19	1
学部計	40	7	30	3

VII

社会連携

[御船町との包括協定]

本学と御船町が、町の社会、経済等の活性化および課題解決に関し、双方の知的・人的資源を活用するとともに、大学と御船町とが相互に連携協力することにより、活力ある豊かな地域社会の形成および発展に寄与することを目的として平成29年に協定を締結している。

定例の連絡調整会議を年3回ほど実施し今後の連携事業内容を協議しているが、新型コロナウイルスの影響もあり活動が中々進まないという状況である。

[国際交流]

入学者数増のための施策のひとつとして東京の日本語学校と協定を結んだ結果、令和3年度の新入生として4名の中国からの留学生を迎えることができた。さらに、留学生が入学するまでのルートを形成する目的で、本学・日本語学校・中国の高等学校の3校で協定を結んだ。これは中国の高等学校に「平成音楽大学特進クラス」を設置し、日本語学校を経て本学に入学してもらうという目的での協定であり、軌道に乗れば毎

年数十名規模の入学者を見込むことができる。他にも同様のルートづくりをすることで安定した入学者数の獲得を目指すとともに、将来的には交換留学などの国際交流に発展させることも視野に入れている。

VIII 校地・校舎の状況

[校地]

昨年度所有分	増加分	減少分	本年度所有分
34,672 m ²	0 m ²	0 m ²	34,672 m ² (内借用 1,162 m ²)

[校舎]

昨年度所有分	増加分	減少分	本年度所有分
10,883 m ²	0 m ²	0 m ²	10,883 m ²

3. 財務の概要

別資料「令和3年度財務計算に関する書類」参照